

デジタルサイネージの共通仕様の検討状況

平成27年10月8日

○ 災害情報等の一斉配信サービス

- 震度5以上の場合に、テレビ放送の災害放送について受信
- Lアラートからの災害情報等の一斉配信サービスを受信
- 放送局側からインターネット経由で一斉配信される災害情報に係る通信の受信 等

○ スマートフォン連携による個人属性に応じた情報提供

- スマートフォンやICカード等をかざすと自国語に変換されて表示
- 自己の身体の特徴、障がいの程度等にあわせたバリアフリーマップの表示
- 自分が行きたい観光地やショッピングモール等の情報表示、ハラル情報を含めたレストラン情報表示 等

○ サイネージ上での多言語情報提供

- 空港や公共空間のデジタルサイネージ上の言語を多言語による変換
- おもてなしアプリ等を自国言語により変換表示
- デジタルサイネージに自国の音声で話しかけると、その音声に応じて表示を変換 等

1. 災害情報等の一斉配信サービスへの対応

○以下のいずれかの手段の検討が必要。

- (1) デジタルサイネージ（端末）に「HTML5標準ブラウザ」を搭載。
- (2) 「HTML5標準ブラウザ」を搭載できない場合、
 - a) コンテンツに関する標準インターフェースを規定する（例：コンテンツフォーマット、表示サイズ等）
 - b) クラウド上で、多言語に変換（例：フォーマット変換等）

○上記の（１）、（２）いずれの場合も、共通の運用ルールが必要（例：平時のコンテンツの割り込み制御、復帰方法等）

2. スマートフォン連携による個人属性に応じた情報提供

- (1) スマートフォンとデジタルサイネージ間の通信手段
 - a) Wi-Fi、 b) Bluetooth、 c) 可視光通信、 d) NFC、 e) QRコード
- (2) スマートフォンによる情報の取得手段
 - a) デジタルサイネージから直接取得、
 - b) デジタルサイネージから発信される情報（透かし等）をトリガーにし、クラウドから情報を取得し、スマートフォンあるいはデジタルサイネージに表示

3. サイネージ上で多言語による情報提供の方法

○以下のいずれかの手段で実現。

- (1) クラウド上にある翻訳サーバを経由して言語変換したコンテンツをデジタルサイネージあるいはスマートフォンに表示
- (2) デジタルサイネージに多言語化したコンテンツを搭載

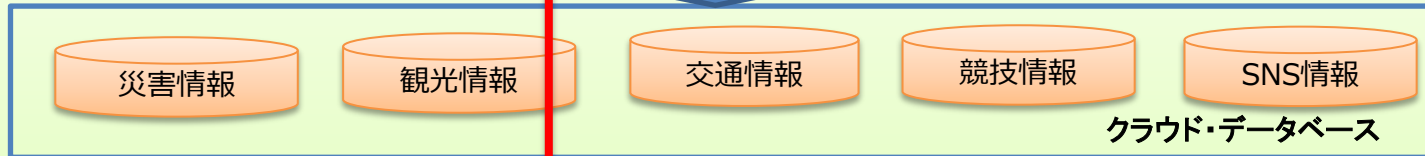
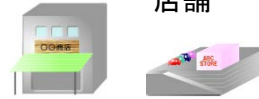
インターネット技術とクラウド連携によるデジタルサイネージ

現在の独自システムで個別に運用されているデジタルサイネージに対し、多言語対応やスマートフォンやICカードとの連携機能等をネットワーク経由でクラウドから提供する「オープンデジタルサイネージプラットフォーム」を実現

コンテンツ提供者

自治体／企業

店舗



インターネット

オープンサイネージプラットフォーム

②クラウド・サービスが提供する
共通インタフェースへの対応

多言語翻訳

一斉配信

ユーザ属性
情報管理

デバイス情報
管理

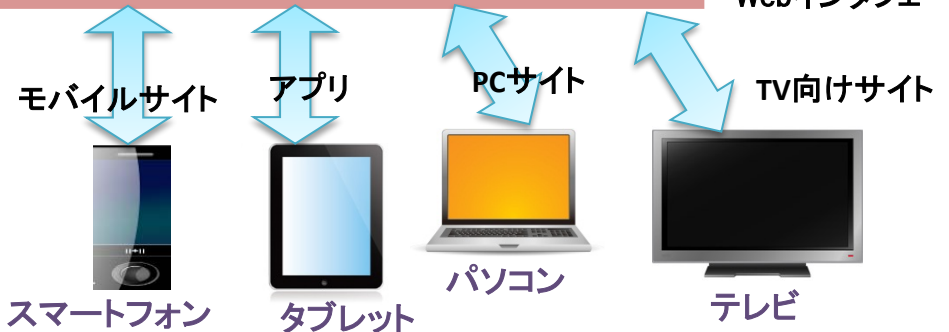
①属性情報を踏まえた情報提供機能、一斉配信機能

サイネージコンテンツ

③他デバイスとの連携



Webインタフェース



各種表示端末